

トマトキバガによる被害が懸念

～育苗期から発生状況に応じた防除対策を行いましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

1) 本虫による食害の発生状況

トマト・ミニトマトにおける2024年の発生状況は、前年と比較して食害発生戸数と市町村数がおおむね2倍に増加し、発生地域がほぼ県内全域まで拡大した（表-1、図-1）。

2) 夏秋トマト栽培終了後の冬期ハウス内（無加温ビニル被覆）での発生状況

2024年に本虫の発生があった県北部のほ場において、冬期間にフェロモントラップ調査を行ったところ、2025年2月に合計554頭の誘殺が確認された（表-2）。

3) 今後の発生予想

育苗期からトマト・ミニトマトでの本虫による被害発生が懸念される。特に、前作で本虫の発生があり冬期間もビニル被覆しているハウスでは、本虫が越冬している可能性が高いため育苗期～定植期には注意が必要である。前作で本虫の発生がなくても地域内で発生が確認されている場合は、ハウス外から侵入する可能性があるため注意が必要である。

苗からほ場へ本虫が持ち込まれ、定植期から食害が発生している場合は、定植後からハウス内で繁殖をくり返し、生育初期から収穫終了まで継続して被害が発生するおそれがあることから、本虫の発生状況に応じて以下の防除対策を行う。

2. 防除対策

1) トマト・ミニトマト栽培におけるの共通事項

- (1) 開口部全てに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置し、ハウス内への侵入を防ぐとともに、ハウス外への逃げだしを防ぐ。
- (2) 苗に食害が無いかをよく確認し、健全な苗を定植する。
- (3) 以下の2) 3) に該当しない場合でも、発生が疑われたり、地域内で発生が確認された場合は、2) 3) に準じて防除対策を行う。

2) 前作で本虫の発生があり、冬期間のビニル被覆がある場合

- (1) 作物の残渣は、本虫が付着している可能性があるため（図-2）、土中深く埋没するか、ビニル袋などに入れて密閉して本虫を死滅させた後、適切に処分する。
- (2) 前作で使用したマルチなどの資材は本虫が付着している可能性があるため（図-3）、適切に処分する。

3) 育苗期～定植期に本虫が発生した場合

- (1) 食害部位は除去する（図-4）。除去した部位は土中深く埋没するか、ビニル袋などに入れて密閉して本虫を死滅させた後、適切に処分する。
- (2) 成虫、幼虫、蛹は見つけ次第、捕殺する（図-5、6、7）。
- (3) 発生を確認したら、直ちに防除薬剤を茎葉散布する（表-3）。
- (4) 育苗期後半～定植時の株元散布又は育苗期後半～定植当日のかん注により薬剤防除を行う（表-4）。
- (5) 海外ではジアミド系剤（RACコード：28）などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が報告されているため、同一RACコードの薬剤は連用しない。

3. 資料

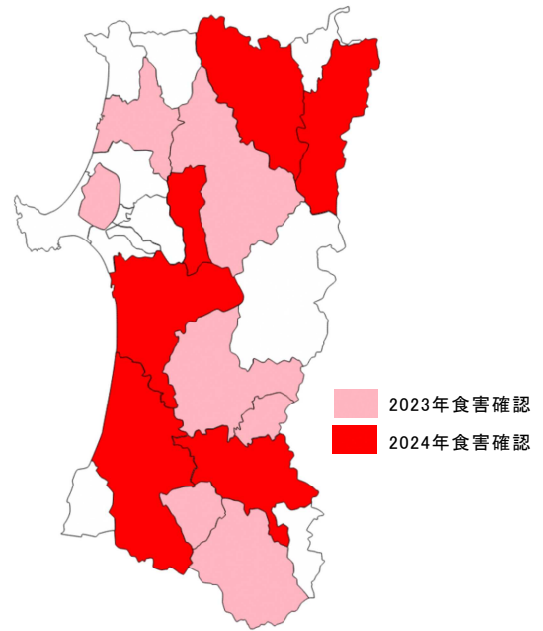
表ー1 2023年と2024年の本虫による食害発生戸数と市町村数

	2023年	2024年
市町村数	7	13
戸数	20	49

表ー2 県北部の夏秋トマト栽培終了後の冬期ハウス内（無加温ビニル被覆）におけるフェロモントラップにおける誘殺数

月旬	2.上	2.中	2.下	合計
誘殺数(頭)	223	175	156	554

※調査期間:2025年1月29日～3月5日



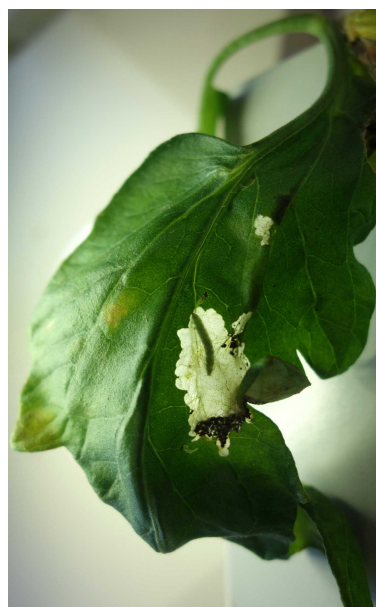
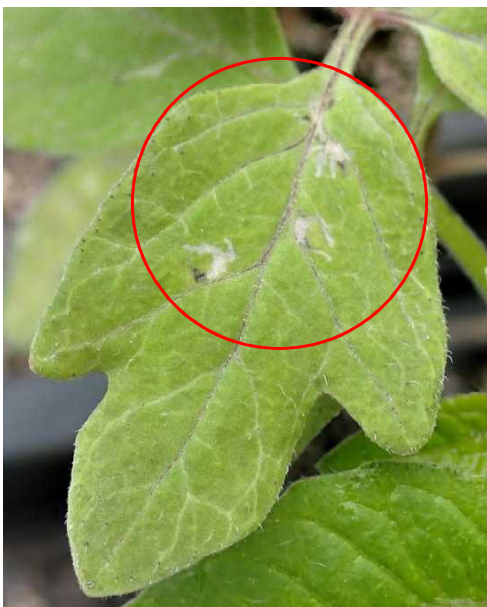
図ー1 食害が確認された市町村



図ー2 前作の被害残渣に付着した蛹



図ー3 マルチに付着した蛹（繭）（上：マルチ上の蛹、マルチの重なりあった部分に連続して付着した蛹）



図ー4 トマトの食害葉（左：食害初期の葉、右：食害が進んだ葉）



図-5 成虫
(参考：体長約5～7mm)



図-6 幼虫
(参考：終齢幼虫約8mm)



図-7 繭から取り出した蛹
(参考：約5mm)

表-3 トマトキバガの防除薬剤（茎葉散布）

適用作物名	RAC コード	農薬名	希釈倍数	本剤の 使用回数	使用時期
トマト ミニトマト	6	アグリメック	500～1,000倍	3回以内	収穫前日まで
○ ○	6	アフーム乳剤	2,000倍	5回以内	
○ ○	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	2回以内	
○ ○	13	コテツフロアブル	2,000倍	3回以内	
○ ○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	2回以内	
○ ○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	2回以内	
○ ○	28	ベネビアOD	2,000倍	3回以内	
○ ○	28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	3回以内	
○	22A	トルネードエースDF	2,000倍	2回以内	
○ ○	22B	アクセルフロアブル	1,000倍	3回以内	
○ ○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	2回以内	
○ ○	11(A)	エスマルクDF	1,000倍	-	

※育苗期間中の農薬の使用回数も、栽培期間全体での使用回数にカウントされる。

表-4 トマトキバガの防除薬剤（株元散布、かん注）

適用作物名	RAC コード	農薬名	希釈倍数又は使用量（散布液量）	使用時期	使用方法
トマト ミニトマト	28	プリロツソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半～定植時	株元散布
○ ○	28	ベリマークSC	400株当り25mL (400株当り10～20L(1株当り25～50mL))	育苗期後半～定植当日	かん注

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>